

学校関係者評価

長崎県立長崎北高等学校
平成30年3月30日

1 自己評価内容

(1) 評価が特に高い項目 (4、3、2、1の4段階評価の平均が3.3以上)

生徒	<ul style="list-style-type: none"> ○北高は、朝の10分間読書の時間が十分に確保されている。(3.3) ○下校時間を守り、適切な時間に帰宅している。(3.4) ○周囲や相手のことを思いやって生活している。(3.3)
保護者	<ul style="list-style-type: none"> ○北高では、容儀・服装指導を適切に行っている。(3.3) ○北高で行っている10分間読書は意義がある。(3.3) ○子どもは、学校行事や生徒会活動・部活動に積極的に参加している。(3.3) ○子どもは、適切な時間に帰宅している。(3.4) ○子どもは、バスの中など校外でもマナーを守り、周囲に迷惑をかけないようにしている。(3.4) ○北高は、教育に必要な施設や設備が整っている。(3.3)
職員	<ul style="list-style-type: none"> ○目指す学校像、育成したい生徒像が明確である。(3.3) ○他校にない校風や特色を持っている。(3.4) ○「両道頭揚」の実現を目指し、学業と部活動の両立を目指す活力ある生徒の育成によく努めている。(3.3) ○適切な情報に基づいた進路選択を指導している。(3.3) ○早期に進路目標を設定させるため、学年進行に応じて適切な進路情報を提供している。(3.3) ○個々の生徒の進路目標を把握し、それに応じた、きめ細やかな進路指導を行っている。(100%の進路実現に向けた指導を行っている) (3.4) ○学校行事や生徒会活動・部活動に積極的に参加するよう指導している。(3.5) ○容儀・服装を整えさせる指導や、挨拶指導を適切に行っている。(3.3) ○集団生活やバス等の利用時のマナーを守らせる指導を行っている。(3.4) ○悩みや不安を持っている生徒に、細やかに対応している。(3.3) ○生徒の疾病や事故に、迅速・適切に対応している。(3.5) ○朝の10分間読書には意義がある。(3.3) ○生徒の学力に応じた教材を活用し、個々の生徒に適した指導ができている。(3.3) ○学校は、生徒がいつでも学習できるような教育環境を整えている。(3.3) ○教育に必要な施設や教具教材が整備されている。(3.4) ○生徒・保護者からの相談によく乗っている。(3.3) ○北高は、Webページの更新や北高NEWSを通じて適切に広報活動を行っている。(3.4) ○PTA活動は計画的で、保護者も関心が高く協力的である。(3.3) ○地域や校外機関と連携して教育活動や環境浄化に努めている。(3.3)

(2) 評価が特に低い項目 (4、3、2、1の4段階評価の平均が2.8以下)

生徒	○北高は、生徒一人ひとりの能力に応じた適切な学習指導を行っている。(2.8) ○北高は、生徒会活動が活発である。(2.8)
保護者	なし
職員	なし

2 重点目標とその達成状況

I 重点目標

(1)心豊かでたくましい人間力の育成

- ①切り替えへの働きかけにより、「学習を基軸に据えた部活動との両立」を果たすタフな精神力を育む。
- ②挨拶、マナー、端正な身なりなどの意識の向上と実践を図り、豊かな品性、北高生としての自覚と誇りを育む。
- ③清掃活動や教室・部室などの整理整頓に努めさせ、感謝の気持ちや公共心、公德心と共に気が付く心を育ませる。
- ④時間や提出期限の厳守、3点固定による生活リズムを確立させ、自己統制能力を育てる。
- ⑤学校行事、生徒会活動、HR活動、部活動などに積極的に取り組ませ、リーダーシップ・フォロワーシップの体得及びコミュニケーション力などの向上を図り、問題解決能力を育ませる。
- ⑥『道徳教育全体計画』に基づき、「あらゆる場面で道徳教育」との認識で教育活動を展開し、特に、生命の尊厳、個や人権の尊重について深く理解させ、自他共に思いやる心を育ませる。

(2)学びの体幹強化と進路実現

- ①朝読や図書館利用促進などを通じて、生涯学習、生きる力の基本としての読書啓発を促進する。
- ②独自教材の作成・活用や授業規律の徹底など、計画的で組織的な各学年の導入期指導を実施する。
- ③教材研究と授業法研究を徹底し、互観授業、生徒による授業評価も活用し、主体的・対話的で深い学びの実現へ向けて授業改善（授業のP D C Aサイクルの確立）に取り組む。
- ④スタ・サポ、定期考査、対外実力・模試、センター試験、大学入試問題などの分析・検証を通じて、授業改善（授業のP D C Aサイクルの確立）に取り組む。
- ⑤コツコツの精神を浸透させると共に、『生活の記録』を用いて自己管理能力、時間活用能力を育成し、3時間以上の家庭学習を確保させる。
- ⑥『進路シラバス』の活用、総合的な学習の時間、進路講演会などを通じて、進路選択能力の育成を図る。

(3)保護者・地域の期待に応える学校づくり

- ①保護者への連絡を密にし信頼関係を築くなかで、生徒が社会人として自立できるよう援助する。
- ②P T A活動への積極支援、保護者の来校機会の増設により、保護者との連携、相互理解を一層深める。
- ③面談活動や観察による生徒理解に努めるとともに、特別な配慮や支援が必要な生徒に対しては、カウンセリング委員会、特別支援教育推進委員会などの組織的な対応と支援を行う。
- ④安全で安心、より豊かな教育環境を提供する。
- ⑤少人数クラス編成、35コマ授業、海外語学研修、高大連携事業、長大生インターンシップ制度、北高祭、長崎北高ココデショ、青志寮、青志奨学金制度など、本校の特色ある教育活動をさらに進化させる。
- ⑥W e b ページやメールメイト、『長崎北高NEWS』などを通じて、積極的に情報発信と情報

公開に努める。

II 達成状況

(1) 心豊かでたくましい人間力の育成

- ①ほぼ達成できた。この項目にかかる評価は概ね良好であるが、学習と部活動の両立は本校の生命線であり、一層の推進を目指して取り組んでいく必要がある。
- ②ほぼ達成できた。この項目にかかる評価も昨年同様概ね良好である。挨拶、マナー、身なりは北高生の根幹として今後も指導していきたい。
- ③ほぼ達成できた。清掃活動については生徒・保護者に比して教員の評価が低い。今後も教員として要求水準を高く持ち、指導していきたい。
- ④ほぼ達成できた。生活の記録による生活リズムの把握、下校時間指導を適切に行っている。
- ⑤ほぼ達成できた。学校行事などの特別活動に対する評価は生徒、保護者、教員とも良好である。
- ⑥ほぼ達成できた。学校評価における「周囲や相手のことを思いやっている」に対する生徒の評価は良好である。

(2) 学びの体幹強化と進路実現

- ①ほぼ達成できた。朝の読書活動は定着しており生徒・保護者の評価は良好であるが、図書館の利用者数や図書の貸し出し数は増加を望みたい。
- ②ほぼ達成できた。生徒の実態を踏まえた独自のブリッジ教材を作成した。また、組織的かつ一貫性を持った導入期指導のマニュアルを作成した。
- ③校内における教材研究の徹底や「互観授業旬間」の実施だけでなく、校外での研修にも積極的に参加するなど、改善に取り組んだ。しかし、一人ひとりの能力に応じた適切な学習指導という項目では生徒2.8と前年度より0.1ポイント下がった。「授業評価」の効果的な活用など、改善に努めたい。
- ④ほぼ達成できた。学力検討会以外にも主な模試・実力テストの結果について分析と対策を行い、授業改善（授業のPDCAサイクルの確立）に取り組んだ。この項目の教員の評価は3.2と0.2ポイント上昇した。
- ⑤改善の余地がある。学校評価の生徒の数値は前年度と変わらず2.9、保護者は0.1アップで3.0ながらも高くはない。家庭学習にコツコツの精神で取り組ませるための一層の工夫が必要である。
- ⑥ほぼ達成できた。しかし、さまざまな手立てを講じているにもかかわらず、進路指導に対する評価は生徒3.1、保護者3.0と高評価とは言いがたく、工夫の余地がある。

(3) 保護者・地域の期待に応える学校づくり

- ①ほぼ達成できた。学校評価の保護者評価は25項目中24項目が3.0以上であり、保護者からは本校の教育活動を概ね信頼していただいていることが読みとれる。
- ②ほぼ達成できた。今年度は長崎地区PTA研修会の担当校となり、研修会の実施に向けて緊密に連携することができた。PTA活動のみならず面談をはじめとして、北高祭や講演会などに参加を呼びかけるなど、保護者の来校機会を増やし、保護者との連携、相互理解を一層深めることができた。
- ③ほぼ達成できた。保健・相談部、保健室、教育相談委員会がよく機能し、外部の専門家の支援も得つつ、必要な生徒の把握と支援を行うことができた。ただし、悩み調査の実施や心のポストの設置、保健相談部だよりの発行など積極的な活動に取り組んだが、学校評価の数値は決して高くない。今後も生徒の心に向き合えるよう取り組みを工夫していきたい。
- ④ほぼ達成できた。グラウンド改修も進み、次年度はより豊かな教育環境を実現することができると思われる。保健委員会が行う生徒自身による安全点検も軌道に乗っている。
- ⑤課題がある。今年は北高祭に大きく手を加えこれまで以上に充実したものにするなど特色ある

活動の構築に努めたが、生徒、保護者の評価は共に0.1ダウンであった。

⑥ほぼ達成することができた。Webページについて今年度更新に努めた甲斐あって、生徒、保護者、職員共に評価がアップした。メールメイトについてもさらに活用を図り、広報活動の一層の充実を図りたい。

3 自己評価・取組の検証および改善についての意見

- 大学セミナーなどの実施も有効だが、卒業生を含めた大学生の生の声や情報を生徒に提供してはどうか。
- 自分の担任するクラスの他の教科の授業を見る機会を設けてはどうか。子供たちの別の側面を見ることができて有意義である。
- 組織作りがなされ、先生方のスクラムがしっかりと組まれていることが高評価につながっていると思う。
- プリント1枚作るのにも便利な世の中になったが、教材や生徒にしっかりと向き合う指導が大事である。
- 大学入学共通テストに向けては、肩に力を入れず日常の取組を大事にすることで、様々な力をつけることができる。
- 毎月発行されている北高NEWSで北高の様子がよく分かる。
- 中学校の先生方の研修会で、北高生の高評価が聞こえてきた。こういった良い面について、ホームページなどで情報発信をしてはどうか。

4 学校側の取組

- 職員全体で足並みをそろえて、本校の校是である『両道頭揚』を実現するための取組をさらに進めていく。挨拶・身なり、掃除等の生徒指導を基盤とし、学習・進路指導の充実と部活動の活性化に取り組み、学校関係者や地域住民のみならず広く県民からも評価される学校作りに一層取り組んでいく。
- 地元で愛される学校作りを進めるために、地域との交流やPTAを始めとした関係団体との連携を一層強化していく。
- 広報は、北高の教育活動への理解を広げるだけではなく、生徒募集にも直結する大事な問題である。オープンスクールや学校開放などの工夫、学校案内や北高ニュースなどの紙媒体の改良、ホームページなどのWeb情報の更新など特に留意して充実に努める。